

Hello Hello

鈴木梢

舞台をゆっくりスポットライトが照らす。女が一人。
間。(スポットライトは20秒毎に一つずつ増えてゆく)

女 ハロー、ハロー。聴こえていますか。

あの日、私は壊れました。

私の今言った「あの日」と、あなたが思う「あの日」は、多分一致していません。これから先何十年、私たちにとっての「あの日」は多分、一つの意味になるでしょう。

そっちはどうなっていますか。

こっちは多分もう何日かすると瓦礫の下に埋まった私の身体を誰かが見つけて私の身体は移送されてまた別の土の中に埋められるでしょう。そうなると思います。でもそこには仲間がいます。だからさみしくはないと思います。お隣さんに挨拶をして、私はゆっくり、分解されて地球になっていきます。そう考えると、結構それも素敵なことのように思えます。

そういえば、私は高校生の時犬を飼っていたのでした。高校生の時とか、高校生の時まで。その犬は私よりだいぶ先に地中に潜ったので、これはずいぶん先輩になるなど今思いました。

会えるといいな。

そうか、これから私がどういう経路で地球の一部になってゆくかは正直わからないのですが、考えようによっては私は先輩たちに会えるチケットを手に入れたのかもしれない。おばあちゃんに黙っておじいちゃんにお先に会えちゃうとしたら、なんかちよつと申し訳ないけどちよつと贅沢な気も同時にします。

勿論、かなしさはあります。こっちもあつちも多分それは変わりません。

でも、私のかなしさよりも、私の祈りが届く方が、それはきつと素敵なことだと思いますし、おんなじ時間をかけるのなら、前を向いた方が素敵で

す。私にとっての前がどこになるのかは、今はもうわからないのですが、ここからは、多分こっちだと思えます。だから、

女を照らすスポットライトの直径が広がってゆく。
舞台が明るくなってゆく。

女 ハロー、ハロー。聴こえていますか。

私は大丈夫です。のんびり待っています。だから急がないで、どうかあなたの速度を変えないで。私は元気です。今までも、これからも星が見えます。空がきれいです。目を閉じれば、ちゃんとそこにあります。

ずっと、ずっとあります。

あなたの顔も、あなたとの日々も、あなたのことも、全部。

ちゃんとあるから。それはきつと、あなたの中にも。だから私たちは、ずっと一緒にいられたし、これからもいられるんだね。

これは、発見です。世界を変える、大発見。

瓦礫の下でも、土の中でも、それはずっと、ちゃんとありました。

思いには重力がありません。だからきつと、瓦礫を越えて届くと思います。

だから、届け！ 思い。

客席も含めた空間全体が明るくなる。

女が大きく手を振る。お辞儀をする。

幕